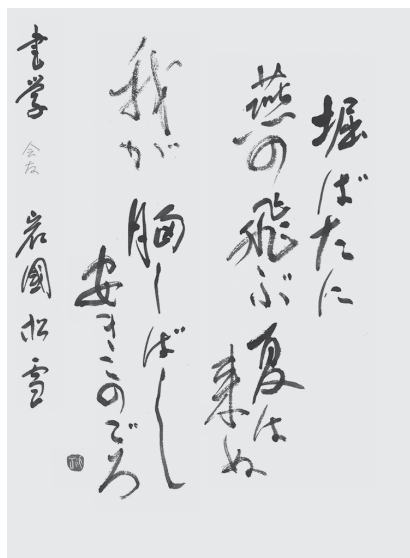


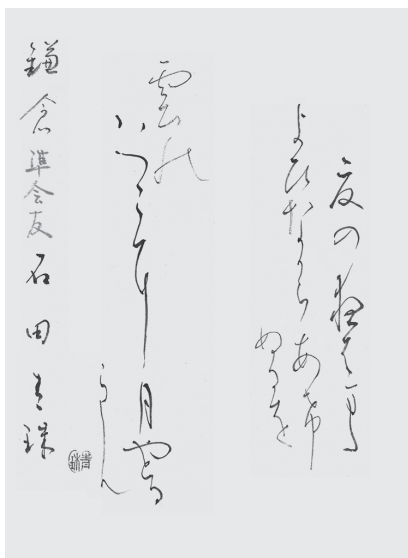
今月の最優秀作品

【新和様半紙】



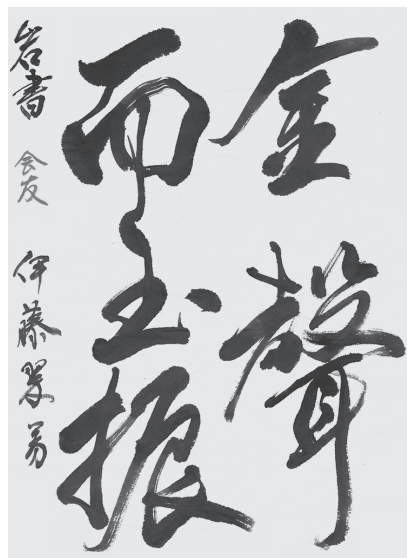
書学 岩国 松雪 墨色、潤濁、余白、運筆の錬度に変化をつけ落款に至るまで、品よく纏めている。キャリアを感じさせる雅味ある作。
(審査評 東仲 遙邨)

【かな半紙】



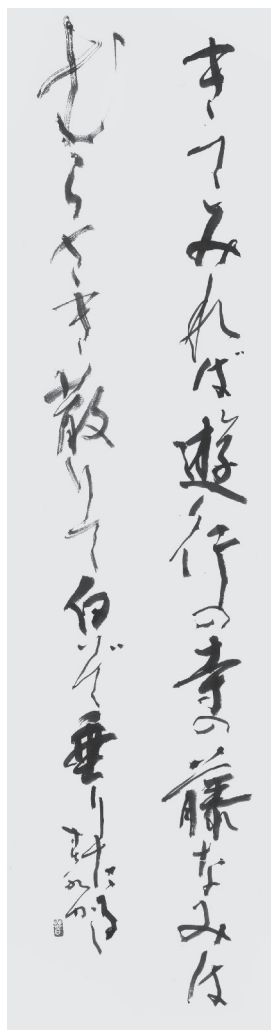
鎌倉 石田 青珠 気を銜わず品致高く素直な字形で、美しく紙面を捉えた。濁筆で大きく入れた「雲」の配字良く爽やかさを感じる。
(審査評 中條 琳音)

【漢字半紙】



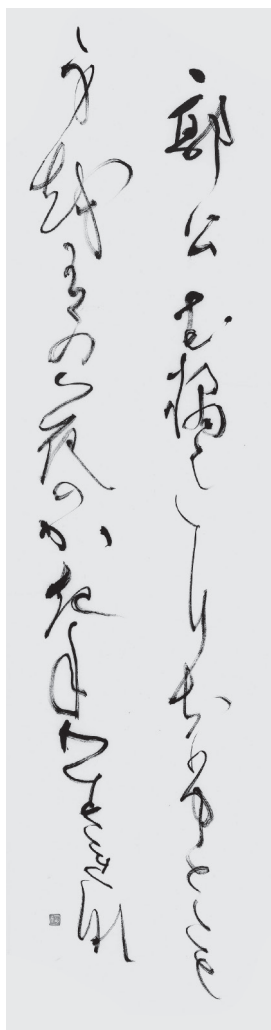
岩書 伊藤 信子 紙墨相和し縦横無尽に筆が展開し乍ら余白明るく全体のバランスも上々、特に「聲」が出色。余韻嫋嫋の会心作。
(審査評 池田 知之)

【新和様条幅】



伊賀 石田 春代 線による表現が見事に生かされている。巧みな筆致により変化に富み、自然な流れは心地よい。余白が効いた存在感ある作。
(審査評 二宮 桂秀)

【かな条幅】



初音 岡本 智子 きりりと引き締まった筆線は細い糸を紡ぐかのように大小疎密の展開を成した。墨色の黒と余白の白は、すっきりと響き合い新風を吹き込むの感あり。
(審査評 中島 永岳)

【漢字条幅】



采女 熊野 素心 鋒を十分に操り、落款・押印に至るまで気脈の途切れを感じさせない秀作。弛みない努力と錬磨を窺わせる。
(審査評 永井 香樹)

7月提出の競書の写真版全作品は、7月23日(木)より本会ホームページに掲載いたします。

弘 濟
萬 品

書 學 四
法藤郁子

金 聲 而
玉 振

子安 幸六 弘 才 典子

金 聲 而
玉 振

書 樂 七
山 家 宗 寧

金 聲 而
玉 振

素 原 準 會 友 佐 伯 政 子

金 聲 而
玉 振

宮 城 友 長 友 長 友 長

弘 濟
萬 品

書 學 四
松 田 雅 美

弘 濟
萬 品

FC 五
中 尾 友 香

金 聲 而
玉 振

安 子 幸 七 段
久 富 南 舟

金 聲 而
玉 振

上 井
福 田 光

金 聲 而
玉 振

書 學 四
松 田 雅 美

弘 濟
萬 品

彩 四 段
小 川 鈴 穂

弘 濟
萬 品

あ ね ば
五 輪 谷 菜 亜 紗

金 聲 而
玉 振

清 月 幸 七
有 藤 実 千 代

金 聲 而
玉 振

柳 幸 幸 八
中 村 楓 香

金 聲 而
玉 振

龍 聖 幸 八
生 駒 志 永 山

弘 濟
萬 品

香 梅 幸 四
澤 水 清 香

弘 濟
萬 品

長 六 幸 五
山 中 唯 名

金 聲 而
玉 振

南 丘 幸 六
中 島 桃

金 聲 而
玉 振

洞 市 幸 八
加 藤 志 保

金 聲 而
玉 振

水 茎 幸 六
山 崎 名 蘭

弘 濟
萬 品

書 愛 幸 四
佐 藤 愛

弘 濟
萬 品

青 松 幸 五
宮 城 由 美

金 聲 而
玉 振

仙 水 幸 六
菅 井 悠 香

金 聲 而
玉 振

24 幸 七
関 根 朋 美

金 聲 而
玉 振

島 田 雅 幸 幸 八
田 和 清 幸 七

弘 濟
萬 品

書 學 幸 四
富 永 江 蓮

弘 濟
萬 品

日 南 洋 幸 五 段
植 村 修 一

金 聲 而
玉 振

加 古 幸 六 段
秋 元 美 枝

金 聲 而
玉 振

松 寿 幸 七 段
松 島 宮 子

金 聲 而
玉 振

永 江 幸 六 段
松 井 保 恵



鳴鳳
在樹

鳴鳳
在樹

鳴鳳
在樹

鳴鳳
在樹

鳴鳳
在樹

鳴鳳
在樹

新緑園林曉氣涼
晨蛩出看移秧

新緑園林曉氣涼
晨蛩出看移秧

新緑園林曉氣涼
晨蛩出看移秧

新緑園林曉氣涼
晨蛩出看移秧

新緑園林曉氣涼
晨蛩出看移秧

新緑園林曉氣涼
晨蛩出看移秧

上足以暢叙幽情是
日也天朗氣清

上足以暢叙幽情是
日也天朗氣清

上足以暢叙幽情是
日也天朗氣清

上足以暢叙幽情是
日也天朗氣清

上足以暢叙幽情是
日也天朗氣清

滿院風鈴語

滿院風鈴語

滿院風鈴語

滿院風鈴語

觀門 菅原 愛山

觀門 橋本 桃舟

ブラ 高橋久美子

万里 神之田澄水

八戸 大橋 協司

書字 宗像 陽子

野光 安藤 青仙

春風 渋谷 和子

和同 吉田 明子

書字 桑原 実香

書字 眞田 夏鹿

松寿 友澤 留美

書字 林 幸子

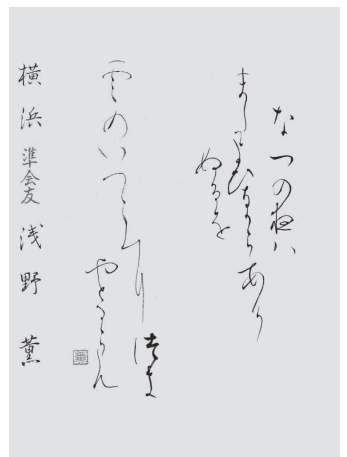
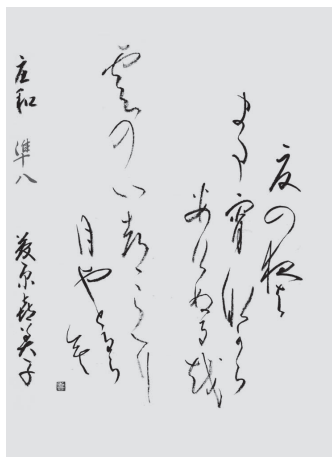
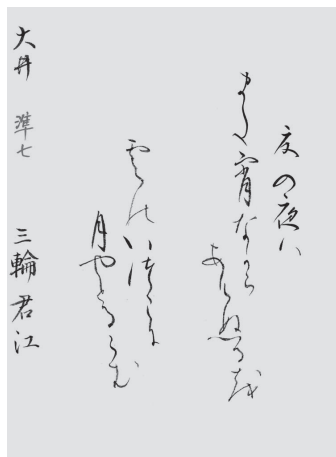
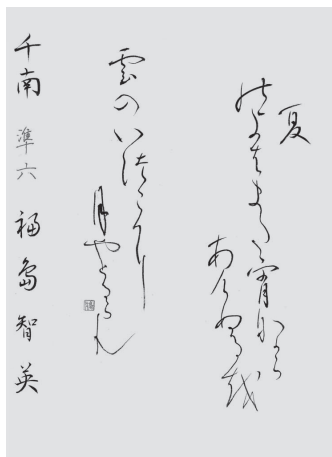
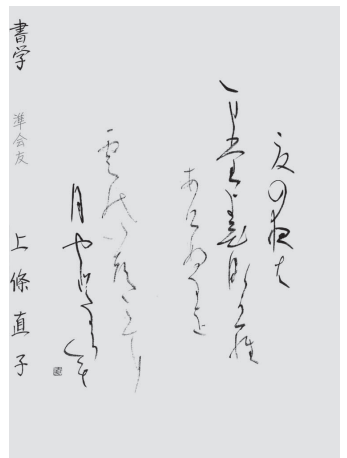
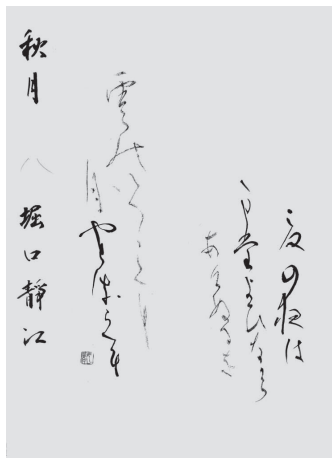
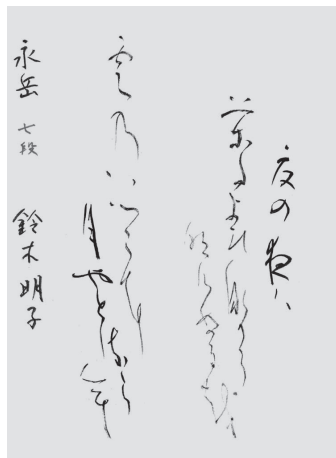
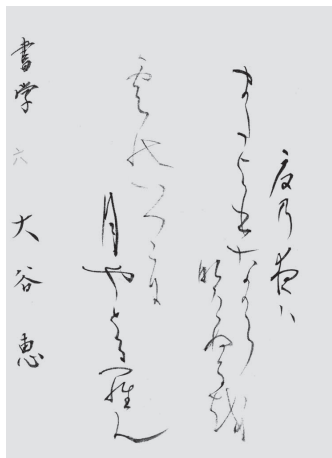
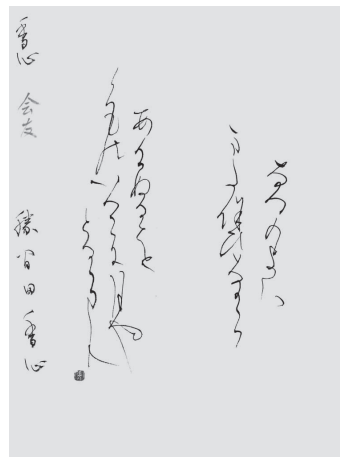
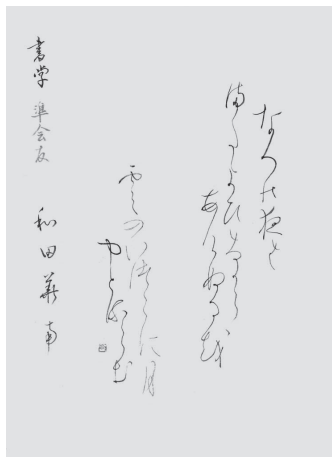
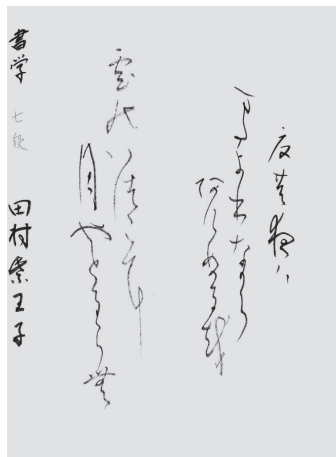
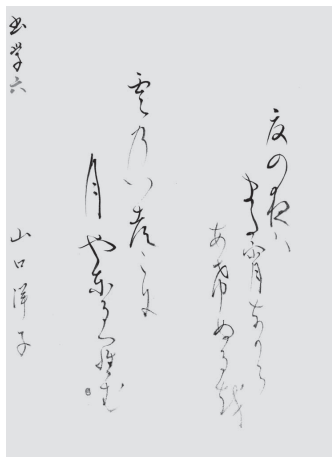
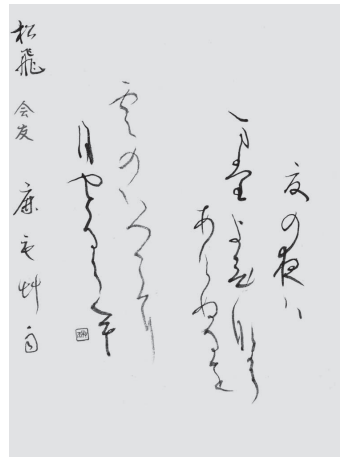
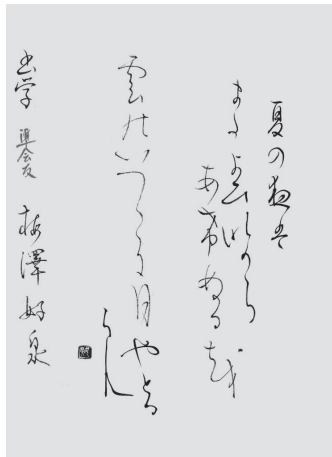
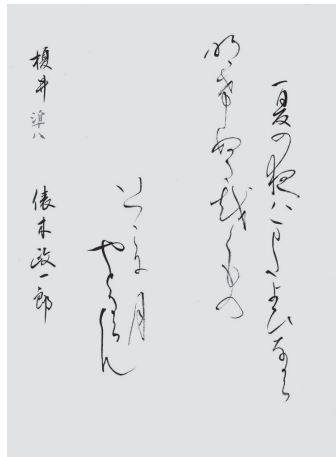
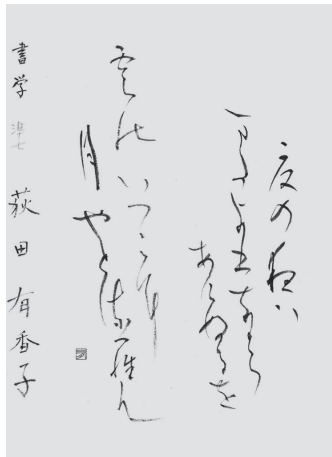
書字 新井有季子

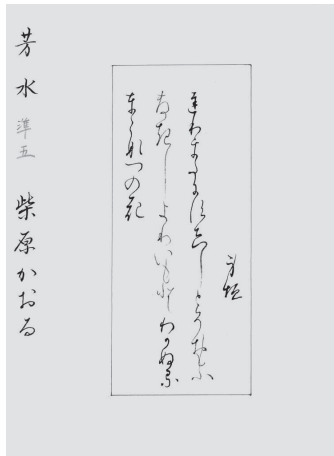
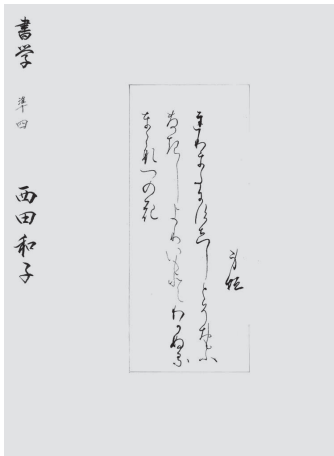
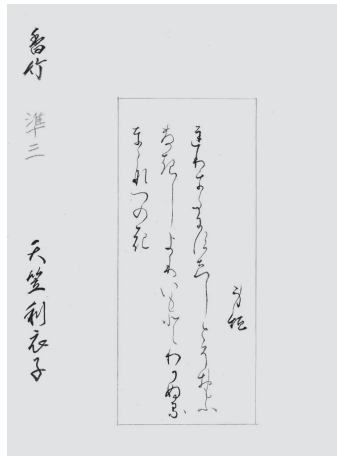
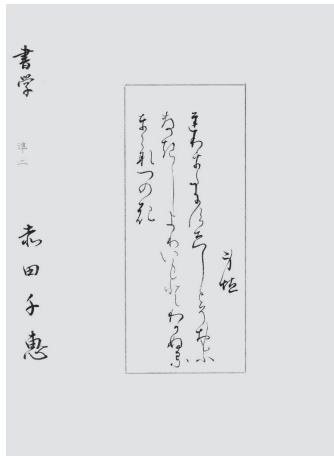
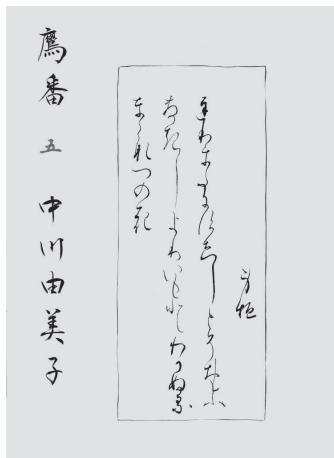
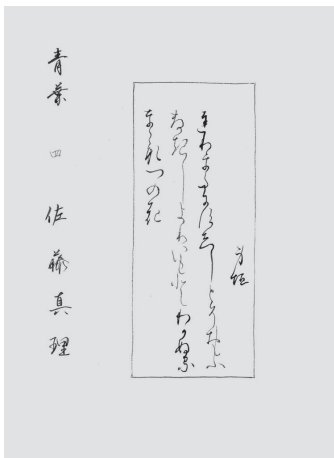
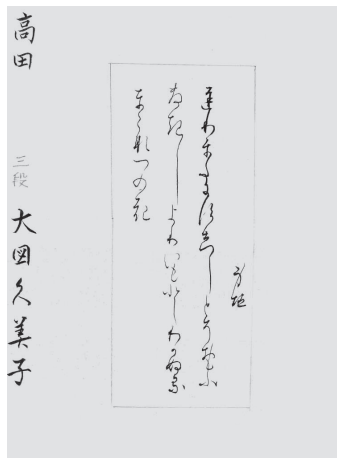
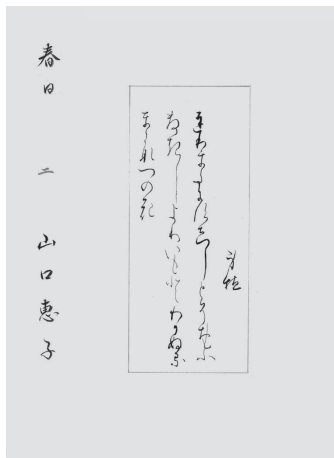
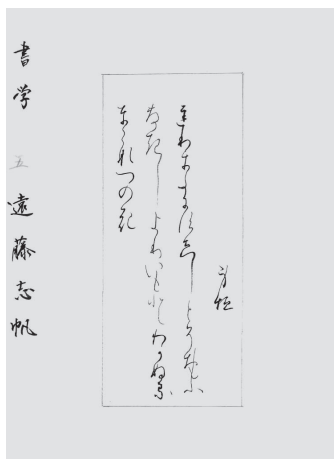
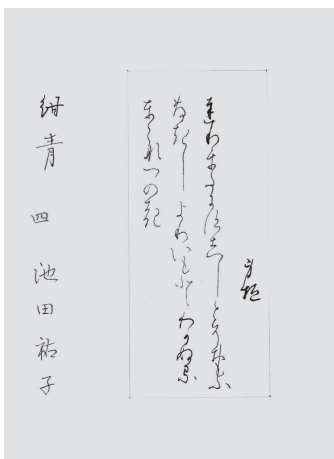
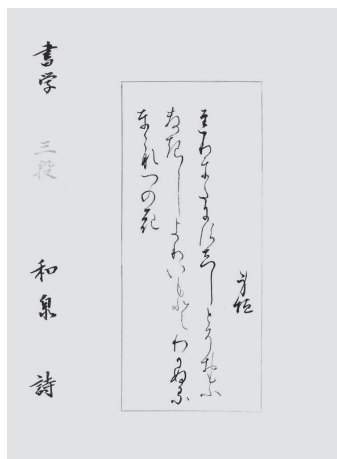
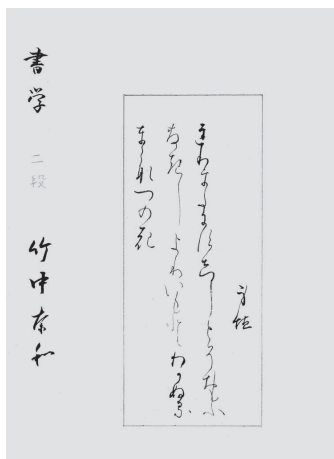
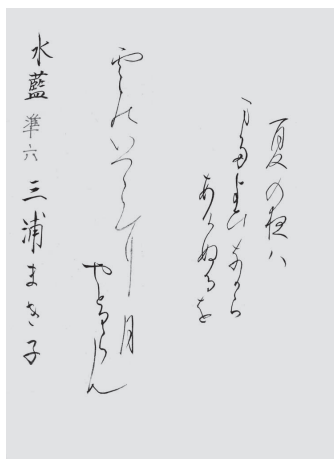
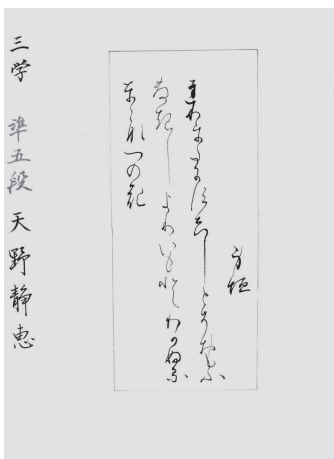
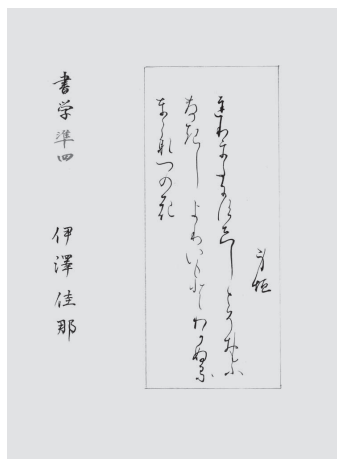
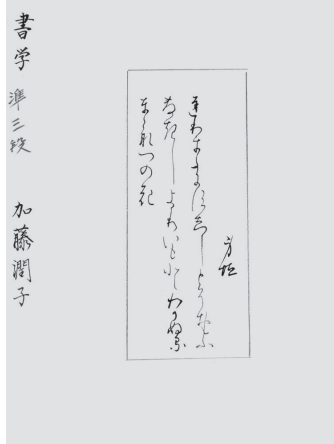
書字 宮本 佳奈

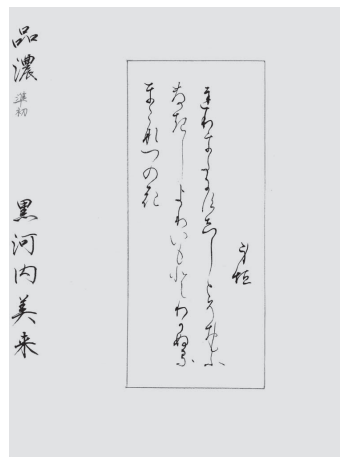
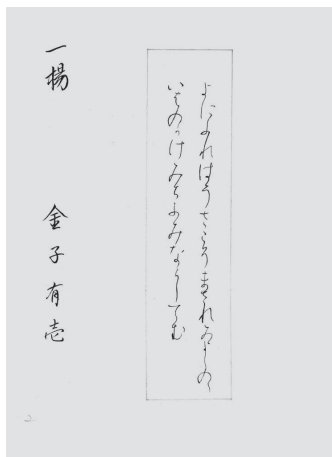
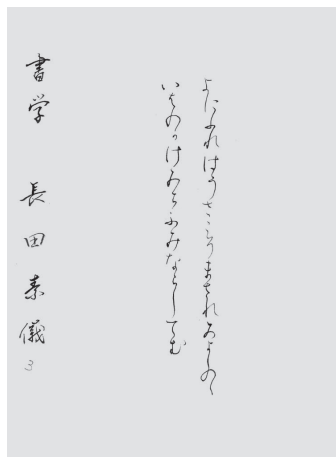
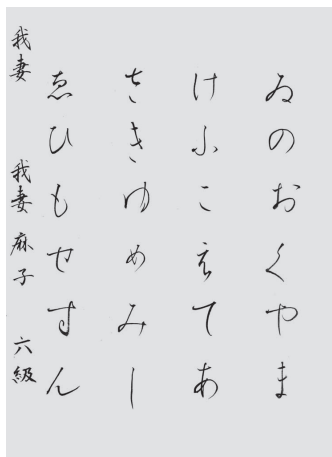
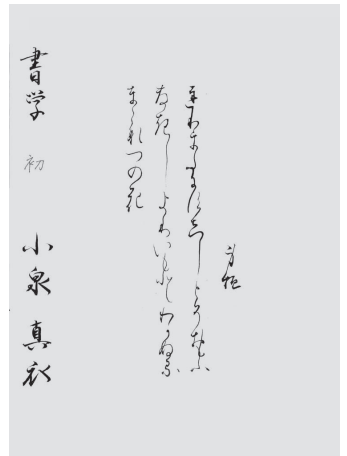
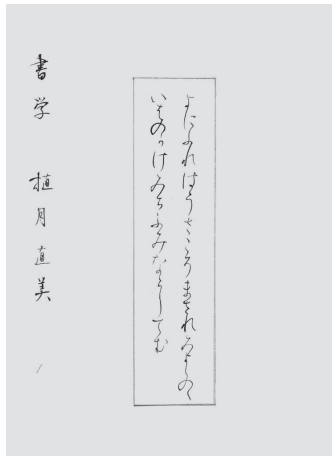
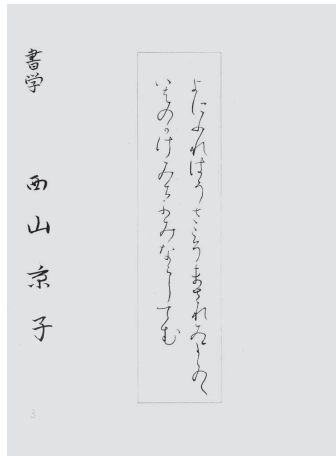
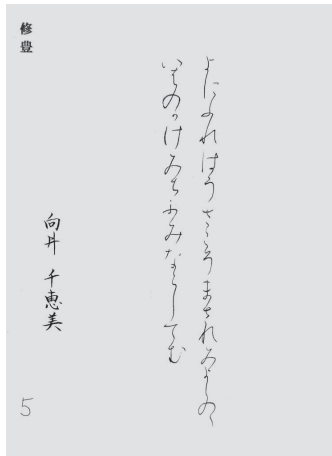
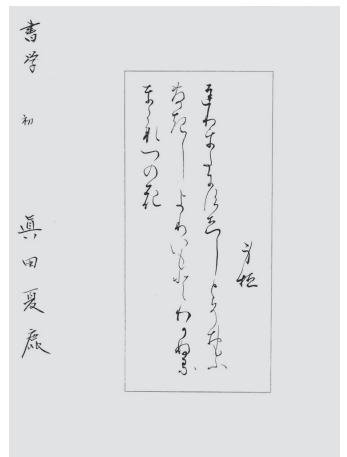
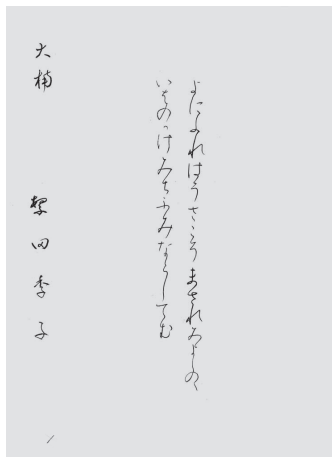
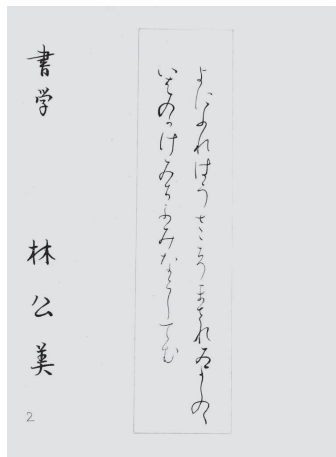
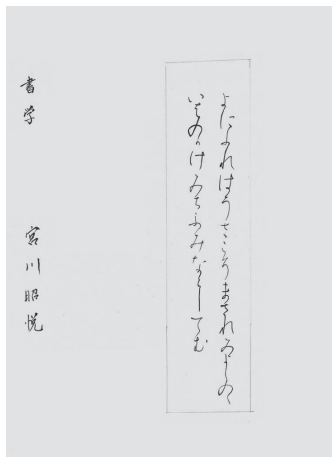
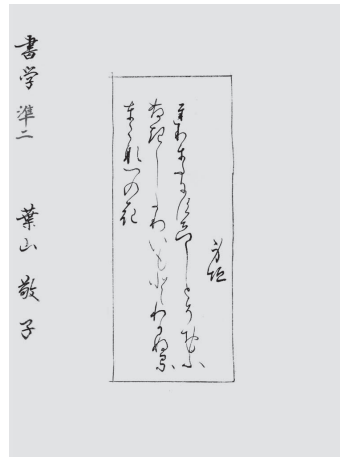
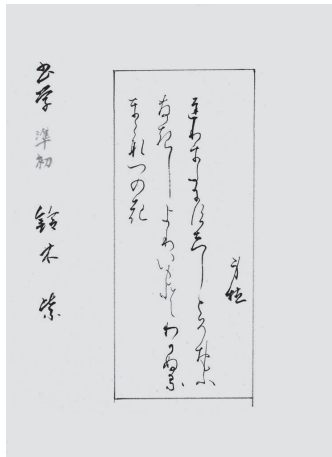
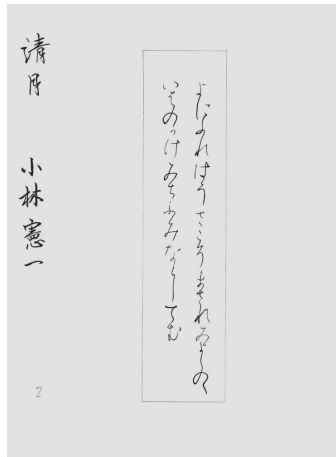
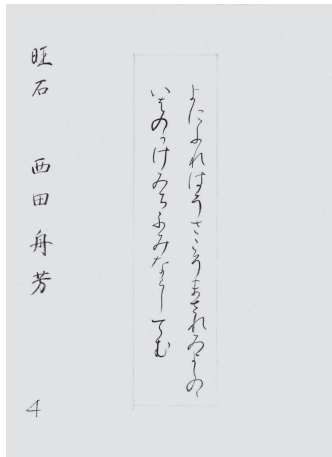
幸子 出

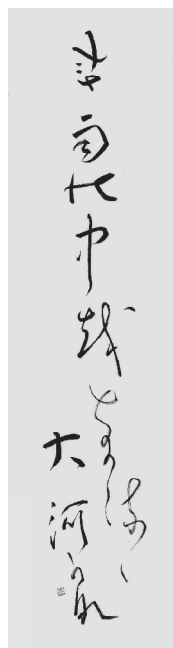
有季子 書

佳奈 書

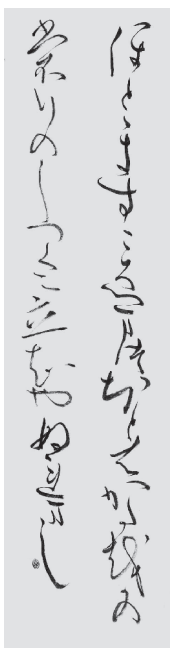




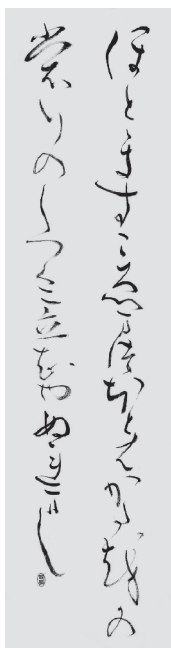




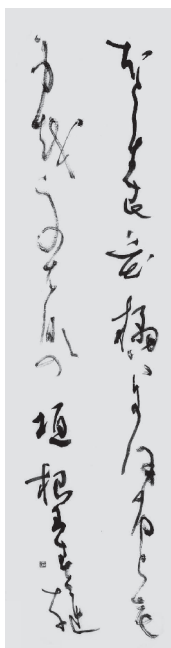
書学 安田 朋未



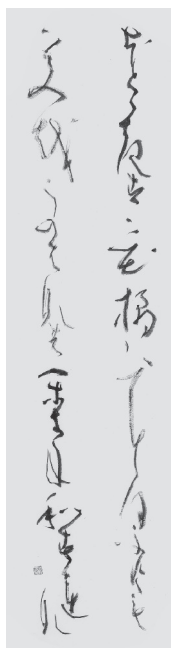
湘花 高橋 佳子



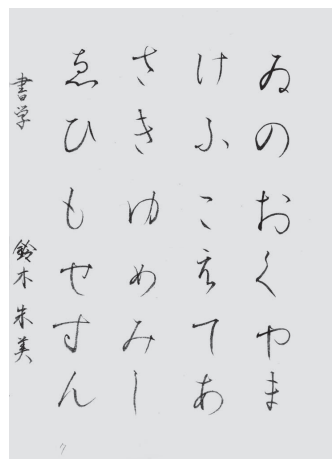
青書 影山 史峰



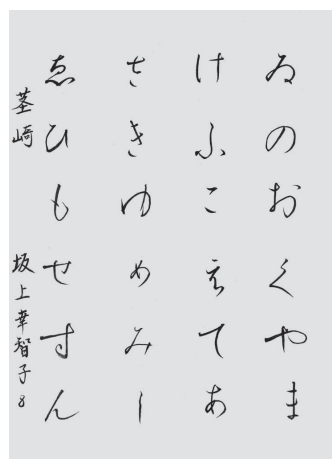
書学 牟田 幸子



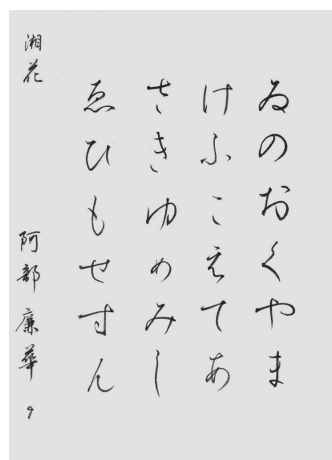
書学 原地 桃香



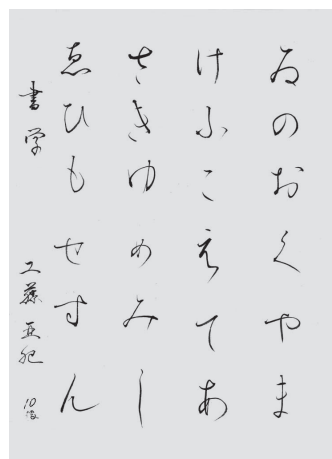
書学 鈴木 朱美



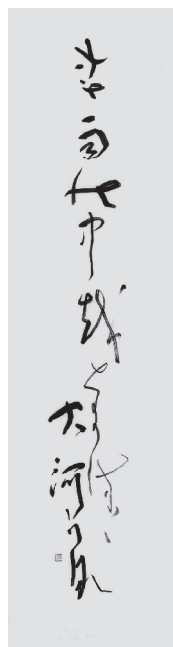
茎崎 坂上 智子



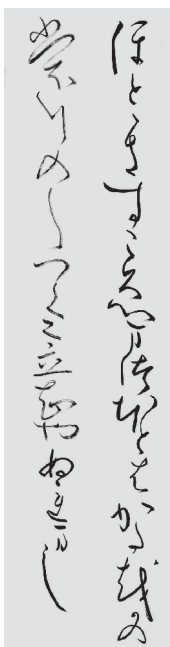
湘花 阿部 廉華



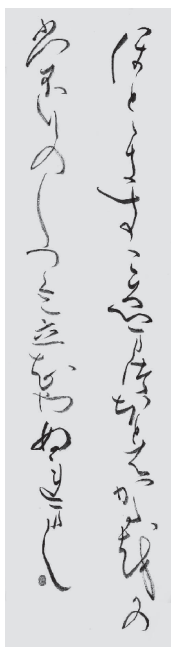
書学 二藤 五紀



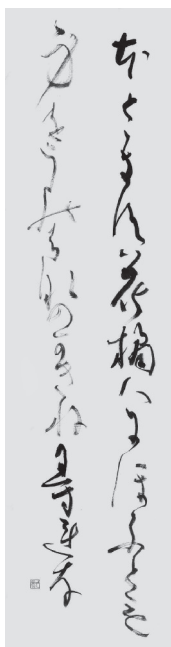
書学 眞田 夏鹿



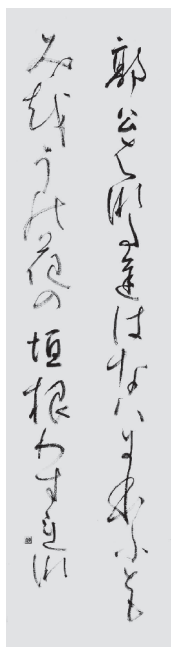
黒水 茂野 芳子



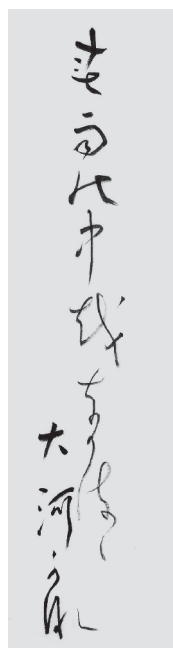
大井 高木 洋子



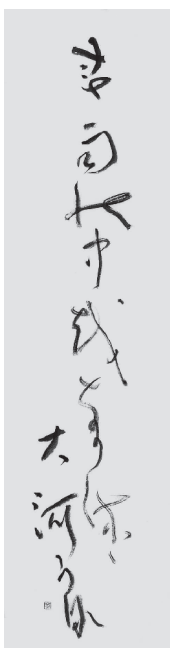
ブラ 高橋 久美子



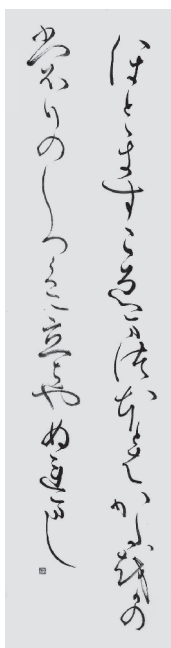
YS 柳瀬 佐代子



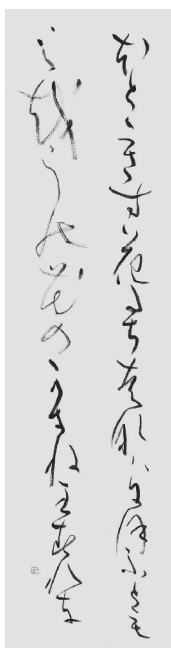
書学 松本 千尋



梧星 横木 優子



書学 齋藤 和子



若竹 柴 真基子

堀ばたに燕の
飛ぶ夏は来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
神奈 会友 真奈 ちか

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
八雲 山金宮野 順

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
杉本 洋八 中村 楓香

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
玄学 準七段 出雲 晃代

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
香梅 立 澤 永 清

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
神奈 会友 八 錦 清峰

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
玄学 準会友 森山 彰穂

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
市川 洋八 白川 函香

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
玄学 六 玉田 蒼竹

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
荒江 五段 波多江 由紀子

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
玄学 准会友 大杉 正美

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
八雲 準会友 山下 裕子

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
聖 七 杉井 雅

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
書学 六 田原 愛

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
幸立 洋五 末栖 智子

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
天草 野間 会友 黒川 良子

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
百合 準会友 山 名 佑

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
柏葉 七 三藤 多哉

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
野光 準六段 宮藤 青仙

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
RU 洋五 ビクトリア

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
唐前 準会友 原田 清幸

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
書学 八段 山崎 青帆

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
東西 準七段 村澤 澄子

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
書学 進六 佐藤 優子

堀ばたに
燕の飛ぶ夏は
来ぬ
我が胸にばし
安きこのごろ
香竹 四 天竺 利衣子

恵那
井戸 茂造
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

清和
武石有希子
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

中原 準二 中村英乙
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

MM 千葉伶華
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 四 遠藤志帆
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

白根
寺尾孝明
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

MM 鈴木絵津子
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

楳屋 初彦 金澤 兼恒
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 村野伸子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 早田段 小林 奈保子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 荒川智美
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

中央 石黒和子 2級
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

書学 初段 村田信嘉子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

梅島 二 藤本悦子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

院心 早四 杉本道廣
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 磯上 幸春
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

山根 景山 剛士 2
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

書学 深初 唐木 真理子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 二級 竹中 泰和
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

楳屋 三 神田富繪
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

NY 上原 三千
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

若里 佐藤 亜美
細き手の
卯の花びーや
豆腐売

楳屋 早初 柳本 久登
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

書学 二級 板屋 幸子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

双葉 三 阿部 京子
帽を揮り
はんけちを振り
初夏の川の風をば
もてあそぶかな

細き手の
卯の花ごしや
豆腐売
立親 三原智佳子

細き手の
卯の花ごしや
豆腐売
春日 栗本翠花

細き手の
卯の花ごしや
豆腐売
MM 大槌英子

細き手の
卯の花ごしや
豆腐売
潤花 阿部康華

細き手の
卯の花ごしや
豆腐売
ST 桜井尚美

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
神奈 坂下 蓉水

野沢 高柳美佐恵

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
書学 山本 浩代

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
山口 神田真理子

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
大楠 岡部 康子

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
床子

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
広島 好田 萩水

ブラ 相澤美佐子

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
書学 藤田 理佳

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
二戸 戸田 克子

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
加茂 西潟 春香

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
春子

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
万里 神之田澄水

白鳥 佐藤 裕子

きつみれば遊行の寺の藤なみは
むらさき散りて白ぞ垂りたる
里山 小宮山魚真

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
山 野村 素生

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
春水 伊藤 宏子

青海はにほひぬ宮の古ばしら
丹なるが淡う影うつすとき
春子

水荃

山下 啓子

分間が整い印象による漢印の風格がある。一本の線にも豊かな味わいが感じられ、確かな安定感で安心して見ていられる作。



規定

「長生久視」

審査評―秋山 凌雲

水荃

武藤美栄子

春秋戦国篆を用いた意欲作。シャープな線質と鋭利な収筆、更に穿插を用いて文字を大きく見せる章法が見事である。



書学

嬉野満利子

文字の疎密を考慮し、対角で大小をつけた章法が素晴らしい。太めの外郭が醸し出す古拙の味わいも抜群で、存在感のある作。



書学

及川 理佐

文字と外郭の太さが絶妙で線質も良く、伸びやかで全体的に明るい作。外郭に挑戦的な部分が加わればさらに良い。



随意

「永寧」

教習名	久書
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 熊本 吉川 千代子

教習名	久書
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 久書 長谷川 裕美

教習名	栗丘
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 栗丘 笹岡 久遠

教習名	やの
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 野口 翠花

教習名	八雲
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 後藤 佐代子

教習名	伊賀
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 山口 智代

教習名	書学
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 宮下 香奈

教習名	大塚
氏名	岸本 北島 久保 小林 後藤 河野 近藤 佐々木 佐藤 斎藤 坂本 桜井 大塚 震 翠

近其人及諸惡者若屠兒若畜猪羊鷄狗
若猶師若街賣女乞是人心意質直有
正憶念有福德力是人為三毒所惱亦
不為嫉妬我慢耶慢增上慢所惱是人
火欲知足能循普賢之行普賢若如來滅
後後五百歲若有人見受持讀誦法華
經者應作是念此人不久當詣道場破諸
魔衆得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪
擊法鼓吹法螺雨法而當坐天人大衆中
師子法座上普賢若於後世受持讀誦
是經典者是人復貪著衣服卧具飲食
資生之物所願不虛亦於現世得其福報

五合 河野 江舟

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 尾崎美和子

近其人及諸惡者若屠兒若畜猪羊鷄狗
若猶師若街賣女乞是人心意質直有
正憶念有福德力是人為三毒所惱亦
不為嫉妬我慢耶慢增上慢所惱是人
火欲知足能循普賢之行普賢若如來滅
後後五百歲若有人見受持讀誦法華
經者應作是念此人不久當詣道場破諸
魔衆得阿耨多羅三藐三菩提轉法輪
擊法鼓吹法螺雨法而當坐天人大衆中
師子法座上普賢若於後世受持讀誦
是經典者是人復貪著衣服卧具飲食
資生之物所願不虛亦於現世得其福報

書学 和久津久美

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

書学 宮下 香奈

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

ちば 吉村 まさ子

摩訶般若波羅蜜多心經
觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時照見五
蘊皆空度一切苦厄舍利子色不異空空不
異色色即是空空即是色受想行識亦復如
是舍利子是諸法空相不生不滅不垢不淨
不增不減是故空中无色无受想行識无眼
耳鼻舌身意无色聲香味觸法无眼界乃至
无意識界无无明亦无无明盡乃至无老死
亦无老死盡无苦集滅道无智亦无得以无
所得故菩提薩埵依般若波羅蜜多故心无
罣礙无罣礙故无有恐怖遠離一切顛倒夢
想究竟涅槃三世諸佛依般若波羅蜜多故
得阿耨多羅三藐三菩提故知般若波羅蜜

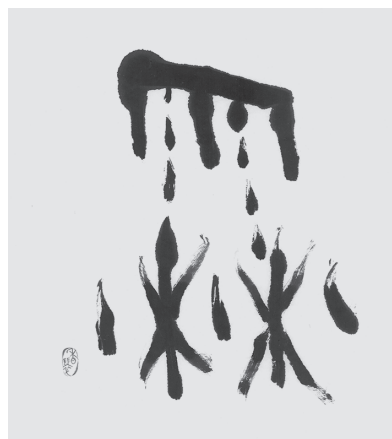
佐波 淺野 典子

規定

（霖）

雨と林の合体文字を、変化多様な造形表現することに工夫を凝らしても、難しい課題であったようです。

審査評—立川 井梧



きし 根来 佐枝子 甲骨文字を背後とし、各画の線条は淡々とした墨量の変化で多様な表現を見る。並び連なる情趣を感じる。

水荃 青戸佑きこ や、結体は難解なれど、線は多様な表情を見せ躍動した。表現力は自在で達者だが走り過ぎの感がある。最終画伸び過ぎた。

神子 吉田 紅夢 雨と林の字形の表現は個々に独立しながらも楽しい。線美は明朗でリズムの中で書かれた気韻生動を感じる。

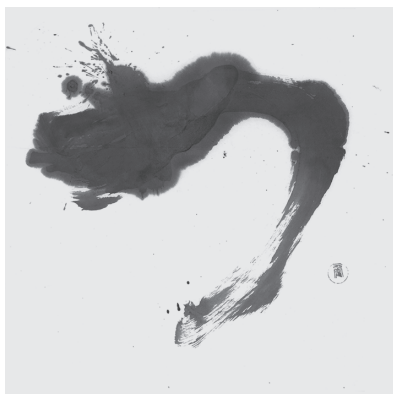
宮城 長嶋 翠月 木簡調のリズムによる造型は、点画静動により連続された筆意を表す。「林」の左右に張り出す筆勢の直線で調和を作りだす。

随意

（め）

課題の字体は、筆遣いは円勢にする必然から、変化をつける表情に苦労された様子でした。

審査評—立川 井梧



水荃 鶴淵 雅子 漢字「女」の造形を規格雄大で自然流動な確かな技法で表現され、安定して見ることが出来る。線の強さを表出する用紙を望む。

三木 宮田 雲鶴 書き出し含墨量多大の潤筆の滲みの効果と、曲線の渴筆筆捌きは力強く余白を巻き込む秀作。創造性に富む感性が光る。

水荃 川原 重信 自然で基本的な作風の運筆は、線に静動を表わし弾力あるよい線だ。奇を避けた心情の字形が好感あつて平がな作品中最傑作。

春日 曾我 卓史 等筆圧をかけながら沈み込む線は、重厚感に勝る。余白の一点を望遠鏡で覗く景色は的を射て向きあう。黒墨の特殊性を見る。